

する我が子へ



「地域の守り手」としての社会的使命が求められています。しかしながら、建設労働者の高齢化、若年入職者の減少により人手不足が深刻になる中、これまでと同レベルの工事施工能力や品質維持が懸念されています。

そこで建設業界に就職した若者とその親御様に就職の決め手になった動機や社会人として一步を踏み出した我が子への想いや実際に働いて分かった業界の良いところなどを語っていただきたいと思います。そして魅力ある建設業について栃木県内の次世代を担う若者に伝え、建設業就職を考えてもらうきっかけにしたいと考えています。

—最初に自己紹介を兼ねて現在担当している業務、建設業界を目指そうと思ったきっかけをお聞かせください。それでは、宇都宮支部の中村土建・篠原稚奈さんからお願いします。

■**篠原稚奈** 宇都宮支部、中村土建の篠原稚奈です。現在の担当は、現場での測量や出来形管理、安全管理、リース品などの原価管理です。私は宇都宮工業高校に進学した時点で、卒業後は就職すると決めていました。数多くある職種の中でも建設業を選んだ理由は、土木について学ぶ中で、現場監督という仕事を知り、興味を持ったからです。

—続いて、下都賀支部の板橋組・大橋圭さんお願いします。

■**大橋圭** 下都賀支部、板橋組の大橋圭です。現在は現場管理をしています。大学生の時、建築設計を学び、建物を描き、形にしていく楽しさを知っていく中で現場ではどうやって建物が出来ていくかを知りたい、触れたいと思ったからです。また、自分が学生時代に学んだ経験や知識が建設業でどこまで通用するか試したいという思いもありました。

—続いて、塩谷支部、佐藤建設工業・斎藤千寛さんお願いします。

■**斎藤千寛** 塩谷支部の佐藤建設工業の斎藤です。現在の業務内容は舗装工です。小さいころから建設機械を見るのが大好きでした。そしていつかその建設機械を運転してみたいと思ったのがきっかけです。



中村土建(株) 篠原稚奈さん



篠原美和さん

建設業の魅力向上を支援



栃木県知事

ふくだ とみかず
福田 富一氏

建設業は、社会資本の整備や維持管理を通して郷土の発展や、県民の快適で安全・安心な暮らしに貢献しております。

令和4年には国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」、全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」が本県で開催しますが、施設整備に関し建設業の優れた技術に目を奪われる方も多いことと思います。

また、先の台風19号のような災害発生時には、各機関と協力して最前線で応急・復旧活動に当たるなど「地域の守り手」として重要な役割も担っています。

しかしながら、近年では就業者の減少や若者の建設業離れに伴い、技術や技能の継承が課題となっております。

私は、幼少の頃、目の当たりにした自宅の改築に心を捕らわれ、建築学科に進学し、建築の専門職種で県庁に入庁しました。一時期ではありましたが、工事現場の管理といった技術屋にとって憧れの仕事を任されるなど、充実した時間を送っていたことが思い出されます。

「未見(みけん)の我(われ)」という言葉がありますが、やってみたいと思うことに一所懸命取り組むことが人生において意義のあることであり、ここに登場された方々を始め建設業を志す方々が信念を持って精進を重ねていただくことを願っております。

県においても「働き方改革」や「生産性向上」といった課題に取り組み、建設業の魅力向上や担い手確保対策を支援して参ります。